

2011年度

# タイム総会

2011年度のタイム総会が、4月24日(日)鳥取市国際交流プラザにて行われました。タイムはより活動を継続しやすくして行くために、シンプルな形態を模索しています。設立時(1988年)と比べると、環境や構成メンバーなどの変化があるためです。

その一つが会費制をやめ、寄付金で運営して行く事です。また、セミナー等も厳選して開催して行く事になりました。バザーやフェスティバルなどの恒例行事は今後とも継続して行く予定です。さらにホームページも衣替えしました。閲覧可能な方はぜひご覧になってください。



今後もタイムらしさを生かしながら、皆さんと共に歩んで行こうと思っていますので、よろしくお願いたします。

## 東 西 南 北

“MOTTAINAI”の国際化とは

田中丈士

ある国際交流団体が主催するイベントに参加した。台湾、インドネシアそしてベトナム料理を作って食べるというものだったが、私はベトナム料理にチャレンジした。ベトナムと言えば、ホーという米の麺が有名で、スーパーでもカップ麺として販売しているが、今回はゴイという名前の料理。鳥取大学に留学しているチャンさんに作り方を指導して頂いた。

まず、鶏肉を湯がいて筋に沿って手で切り裂く。そして、タマネギと香味野菜のミツバに、塩こしょうやレモンと調味料で和えてできあがり。これをご飯にトッピングして、スープと一緒に食べる料理だが、あっさりしていて美味しい。この際、鶏肉の湯がき汁は捨てないで、米を炊く水として使用する他、スープにも使う。チャンさん曰く、「鶏肉の湯がき汁はもったいないから、ベトナムではこうやってすべて使い切る」ということだ。

私は何故かとてもうれしくなった。

“MOTTAINAI”が日本語にしかない言葉で、独自の文化のように言われたこともあったが、やはりその精神は日本以外にも生きていたと感じたからだ。しかも、かつては同じ漢字文化圏に属し、儒教と仏教の影響を色濃く残すベトナムで…

“MOTTAINAI”は“カラオケ”のように全世界の共通国際語になるのだろうか。私はならないと思う。そして、ならなくてもいいとも思う。その理由は、“MOTTAINAI”が日本人の専売特許ではないからだ。そもそも、韓国語にも아깝다(アカタ)という対訳語があるし、朝鮮半島にはご飯のおこげを利用するスンニョンという伝統的な飲み物もある。立派な“MOTTAINAI”である。人間が十人十色のように、国や民族は、それぞれに“MOTTAINAI”精神を育んで来た。要はその精神を如何にして実行するかである。

人類史上に残る原子力事故と戦っている我々日本は、原発の運転再開がままならず、今夏は大幅な節電に取り組まざるを得なかった。この試練の時に、我々日本人が培ってきた“MOTTAINAI”を発揮して全世界に示すことこそ、“MOTTAINAI”の国際化と言えるのだと思う。

## タイムセミナー 「世界から見た東日本大震災」

誰もが恐ろしさに震えた東日本大震災と福島原発事故。その映像は世界を駆け巡り、かつてないほどの衝撃を世界に与えました。世界 30 以上の国から救援隊が駆け付け、支援イベントも世界中で開かれました。タイムでは 4 月 24 日(日)の総会の後「世界から見た東日本大震災」というテーマでセミナーを行いました。セミナーでは最初にタイムの田中丈士さんが、東日本大震災に関する一般的な情報や鳥取県から救援部員として派遣された



経験を、次にキップ・ケイツさんが世界のマスコミでこの震災がどのように伝えられたか

を話しました。最後に世界の声としてギニアのディアロ・イブラヒムさん、韓国の崔元貞さん、インドのザミール・シェラワニさん、そしてカナダのパトリック・レオさんがそれぞれの立場から声を伝えてくれました。「ギニア政府は日本への通話を 2 週間無料にした」、「韓国では原発の問題を特に心配した」というような個別の情報もありましたが、全般的に「日本の地理に関してよく知らないために、日本全体が危険なイメージを与えた」、「国を超えて皆が心から復興を願っている」というのが共通した声でした。



## ポトラックパーティー

無事、総会も終わりほっとしたところで恒例のポトラックパーティーとなりました。

ポトラックパーティーは参加者がそれぞれ自慢の料理を持ち寄って、皆でいろいろな料理を食べるとい

うものです。もちろん自慢料理は・・・という方も心配はいりません。コーヒーを入れてくる人、時間がなくて出来合い



のものを買って来る人、お菓子が大好きといって、ポテトチップスを持って来る人とさまざま、それがまた楽しい！いつも同じメニューでがんばる人、毎回新しいメニューに挑戦する人、留学生の珍しい料理を味わうこともありますし、男子大学生が凝った料理を作ってきてくれて、みんなビックリ！なんてこともあります。「これは誰が作ったの？」「作り方を教えて！」「この料理の名前は？」食事を通して会話も弾み楽しい時間が流れていき

ます。そしてこのパーティーの一番いいところは新しい仲間と打ち解けあっていく、きっかけを作ってくれることではないでしょうか。

これから 1 年間さまざまな行事を一緒に行っていく仲間としての絆と言ってはあげさかもしれませんが、何か安心感を感じてしまうのです。

一緒に食事をするって、人との距離をいっぺんに縮めてくれますね。

すべての料理を食べ終わる頃には、もうお腹が一杯、満足！満足！

次回のポトラックパーティーにはあなたも自慢料理？をもっておしゃべりに来ませんか？

〔西村賀代〕





鳥取大学2年 I.F.A. 大瀨 彰博

## ～とっとりミステリーツアー～

こんにちは。鳥取大学 I.F.A. です。去年に続き、今年も私たちはタイムの皆さんとともに 7 月 2 日（土）に「とっとりミステリーツアー」を開催しました。今回のミステリーツアーの目的は去年とは少し違い、鳥取大学の留学生など鳥取に在住しておられる外国の方々により鳥取を知ってもらうだけではなく、一般の方々にも参加していただきグループ内での国際交流も図るといった目的でした。今年は去年の反省を活かし宣伝により力をいれた結果、去年よりも多くの外国・一般の方が参加して下さりました。そして今回は鳥取環境大学からも留学生が参加ということで、去年よりますます規模が大きくなったと思います。

今回のミステリーツアーの内容は、参加者の中で 6~7 人のグループを 5 チーム作り、それぞれのチームが鳥取駅からスタートし、チームごとにお店、神社などの各チェックポイントを回っていき、そこで次の行き先の地図が渡され、最後にはすべてのチームが同じ目的地にゴールするといったものでした。

また、各チェックポイントでは、そのチェックポイントに関わるクイズが出題されるのでお店の方に質問して解答をしていただくといった形で地域の方々と交流を深め、また、クイズの代わりにけん玉など日本の伝統文化の遊びに実際に触れていただくことにより日本の文化をより知ってもらいました。

今回は子連れの家族の方が参加して下さったのですが、ゴール地点の「パレットとっとり」まで 2~3 時間ほどかかるようコースを選択していたので子供達にとっては少し辛かったのではないかと思います。

去年と同様七夕間近だったので、全てのチームがゴールし、I.F.A. が各チェックポイントについて説明をした後、七夕についての紙芝居を披露していただき、実際に笹にそれぞれの願いを書いた短冊を吊りました。その後、2 時間くらいご飯を食べながらおしゃべりをし、そして最後に全体で記念写真を撮り、解散しました。

今回も鳥取市内の数多くのお店の方々に協力をしていただきました。各グループに詳しく説明してくだ

さったことで参加者、お店の方双方にとってとても貴重な国際交流の機会だったのではないかと思います。本当にありがとうございました。来年もこのような形で地域の方々に協力していただけたらと思います。

今回が二回目のミステリーツアーですが去年の反省のおかげで、前回とはまた違った新たなツアーにすることができました。そして今回もまた新たに反省する点が見つかり、それを踏まえて次回はさらに素晴らしいツアーにしていきたいと思います。



## ～鳥取大学 I.F.A. だより～

今回は I.F.A. の活動の一つである Welcome Party について紹介します。

Welcome Party とは、I.F.A. が鳥取大学に新しく来られた留学生を対象に開くパーティーの事です。このパーティーは I.F.A. にとっても重要なイベントで、このパーティーのレクレーション、ランチタイムを通して新たな留学生と知り合い、そして仲良くなれるので、十分に国際交流をできる機会だと思います。このイベントが私の国際交流の原点であったと今では思います。毎年多くの一般の方々も参加して下さるので、少しでも興味のある方は是非一度参加してみてもどうですか。国際交流で最も重要なことは”Don't be shy!!”。



以上、鳥取大学 I.F.A. でした！

金田 悟史

派遣国 タイ(チェンマイ)

派遣期間 2009年6月22日～2011年3月21日

職種 青少年活動



## 任地タイ・チェンマイ

派遣国タイは、近年に外資系企業が大量に参入してきたことで著しい経済成長を見せ、もはや途上国から脱却し、東南アジアの拠点国として中進国の仲間入りを果たしているほどである。しかしながら、経済成長がもたらした社会の急激な発展により、所得格差・貧富格差が拡大している。街には空のプラスチックコップを手にしながら物乞いをする子どもや身障者の姿を目にすることがあるほどである。このように派遣国タイでは一見して発展を見せている一方で、下層部の底上げや社会的弱者への支援が社会的課題になっている。

## 配属先チェンマイ少年の家

配属先であるチェンマイ少年の家は、日本の児童保護施設にあたる施設であり、貧困家庭、孤児、HIV 児、DV などの理由によって、6歳から20歳までの男子200人が在籍し、そのうち約150名が施設に入所・寄宿している。

## ボランティア活動の実際

自分は当入所施設の子どもたちに対して、学習支援を行ったり、スポーツ活動を行ったり、グループレクリエーション活動を行ったりした。学習支援では、子どもたちにタイ語や基礎計算学習を行い、学力の補てんを図った。また、百ます足し算のアイデアを取り入れた「フラッシュ百まい足し算」をゲーム感覚で取り組むことで、基礎計算能力を身につけるとともに、子どもたちが自己の記録を更新していくことで、できる喜びや達成感を感じ、さらなる自信や意欲を培うための活動を行った。スポーツ活動では、現地の子どもたちが好きなサッカーやフットサルの指導にあたり、子どもたちの得意なこと、長所を伸ばしていった。

一方、施設で子どもたちが行うスポーツは、このサッカーやフットサルの一辺倒であったが、その中で新しくバスケットボールの導入にも力を注いだ。バスケットボールを楽しむ子どもたちが増え、子どもたちが余暇スポーツとして他のスポーツを楽しむという選択肢が浸透普及し、より多くの子どもたちがいろいろな新しいものに取り組もうとする素地をつくり上げていった。グループレクリエーション活動では、長縄跳びの活動を中心に行っていた。この長縄跳びを通じて、集団規律、集団協力、あるいは集団構成員としての自己の責任感などを育てる活動に取り組んだ。また、その他にも協調性を育むための集団での構成的な遊びを仕組んでいった。



【基礎計算学習を指導】

## ボランティアとして感じた子どもたちに大切なもの

施設の子どものたちにとって、欠かせない存在でありながらも欠けてしまっている存在。それは子どもたちのことを「見守る存在」。子どもたちは自分自身がうまくできていることやがんばっていることをそばにいる他の人に見てもらいたいと思っている。それは自己を肯定的に見てほしいという欲求からあり、この欲求は自己の成長や発展を求める自己実現欲求へとつながるものである。現地の子どもたちのかわりの中で、子どもたちの成長を信じ、期待し、見守る存在として、そんな子どもたちにとっての「応援団長」であった自分。このような自分たちの成長や行動を期待してそばで肯定的に見守ってもらえる存在としてこそが、活動先施設の子どもたちにとって何より大切なものではないかと感じた。

## タイムバザー

私は今回がタイムさんの会員になって初めてのバザーでした。

会議と思っていた私はなぜか、ものだらけのお部屋に行き、「???なにをするの?」状態から始まりました。さて、バザーと知った私は気を取り直して、「がんばるぞー。」

まず布団やタオルや電化製品を別のお部屋に移したりして、セッティング。

私は始め受け付けにいました。

他のスタッフさんが色々楽しくお話ししてくださって、「フムフム。」

留学生さんたちが来られてからは人の流れに任せて動きました(笑)

そうしてあっというまに留学生さんたちは去っていかれ、私は余った食器を「フムフム」。

「もらっていてもいいよ」

と、スタッフさんたち。

「わーい。」

余ったコップを2つ頂きました。

スタッフさんたちと談笑。

ケイツ先生にもお目にかかれました。

スタッフさんに送っていただいて帰宅しました。有り難うございます!

今回は留学生さんと、と言うよりスタッフさんと交流できて楽しかったです。

素敵な先輩方、有り難うございます! 学生さんたちも混ぜてくださって有り難うございます!

これからも宜しく願いいたします。

大西美穂(おおにし みほ)

### 【編集後記】

最近のタイム・トットリは、皆さんの貴重な体験談などをお待ちしております。お気軽にご連絡ください。

(Z)

編集委員

キップ・ケイツ ケイツ佳寿子 長田三枝子  
八木明子 大観富美子 鈴木勝久

## ミニセミナーに参加して (私が韓国語を学ぶ理由)

田中丈士

7月6日ミニセミナーで、『韓国語…そしてハンゲル』というテーマで私が韓国語を勉強している理由を話しました。『印欧語の故郷を探る』という本では、印欧語はゲルマン語、ラテン語、イラン語も含めてきれいな言語の樹木図が作成されています。しかし、日本語は、アイヌ語、韓国・朝鮮語とともに系統がよく分からない言葉といわれています。モンゴル語、チュルク語などで構成されるアルタイ語群に含まれるという説が有力ですが、アルタイ語族自体を否定する説もあるくらいです。とすれば、日本語とは何なのか、根なし草のような日本語を使うわれわれ日本人とは一体全体何ものなのか…この心の奥にモヤを晴らしたいというのが動機なのです。

## 伝言板

### タイム行事予定

◎ 第47回タイムバザー  
10月16日(日) 於:

鳥取空港国際会館

◎ 異文化理解セミナー『内容未定』

10月予定 於: 鳥取市国際交流プラザ

◎ タイムフェスティバル

11月23日 於: とりぎん文化会館

※ 問合せ先 : 0857-28-5385 (ケイツ)

☆☆☆ ご寄付ありがとうございました ☆☆☆

《個人》◆安室善正♥石川清子◆岩上はる子♥岩田倫子◆榎直子♥大槻起志子◆岡田弘♥尾崎薫◆柏木美代子♥加藤美智恵◆神谷夏子♥河本明美◆岸本郁夫♥木村照子◆倉本弘美♥ケイツ・キップ/佳寿子◆酒巻義雄作野友康◆杉田清美♥関野元/郁子◆大源真美♥高尾昭夫/静代◆竹内ひとみ♥民野茂子◆徳山洸♥永江廣志◆長田三枝子♥中野晶子◆南條満♥西村照子◆博田敏子副井裕♥福嶋祐二◆福田和恵♥福永健作◆古澤美矢子古田和子♥増井デボラ◆松田琢磨♥三橋幸恵◆宮近幸逸♥百村清/佐智◆森英俊♥谷守正寛◆山本二郎♥山脇明子◆米村耕一♥米本哲人◆若木ローズ・メ○藤縄善和 《団体》明るい社会づくり運動鳥取市協議会 (順不同・敬称略)

厚くお礼申し上げます。(合計 218,500円)